

令和7年度 川西市 認知症地域支援推進員活動報告

1 認知症地域支援推進員：8名（各包括に1名ずつ専任の推進員を配置）

2 認知症地域支援推進員の役割

『本人視点を重視し、認知症の人及びその家族に対する支援体制等の強化を図る』

- （1）地域の認知症ケアの向上を図るための取り組みを関係機関と連携、協働して推進する。
- （2）認知症の人が、住み慣れた地域で生活を継続できるよう、認知症の容態に応じ、必要な医療、介護及び生活支援を行う機関と連携し、必要な支援を行う。
- （3）医師会や認知症サポート医や認知症疾患医療センターの専門医等との連携
- （4）川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議との連携体制の構築
- （5）認知症カフェとの連携、運営支援
- （6）川西市認知症初期集中支援チームとの連携及び支援
- （7）「認知症対策アクションプラン」の具体的施策実施への支援
- （8）チームオレンジコーディネーター兼務
- （9）地域で暮らす認知症の人やその家族の支援ニーズを把握（本人ミーティングの場の設定）
- （10）若年性認知症について、兵庫県の若年性認知症支援コーディネーターとの連携及び支援
- （11）その他

報告者氏名：多田地域包括支援センター 石原奈保子

緑台地域包括支援センター 山本一美

川西市福祉部介護保険課中央地域包括支援センター 田上美由紀

川西市 認知症施策全体図

認知症予防と 早期発見及び早期対応



認知症予防と早期発見及び早期対応

- ・(仮称)介護予防ポイント制度
- ・(仮称)巡回型介護予防計測・相談会
- ・認知症チェックリストの活用
- ・認知症初期集中支援チーム

認知症の適切なケアの普及

- ・つながりノート
- ・認知症ケアネット*
- ・認知症相談・対応機関周知冊子



認知症行方不明者SOSネットワークの充実

- ・認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議
- ・川西行方不明者SOSネット*
- ・認知症みまもり登録
- ・GPS付靴の給付
- ・認知症損害賠償保険の加入
- ・つながりノートの配布

認知症本人や その家族



認知症サポーター等の養成

- ・認知症ステップアップ講座
- ・認知症サポーター養成講座
- ・キャラバン・メイト養成研修



認知症本人及び 家族支援

居場所づくり・日常における支援

- ・通いの場(認知症カフェ等)支援
- ・訪問型支えあい活動支援
- ・移動販売



サービスの充実

- ・認知症対応型通所介護
- ・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)



認知症になっても 安心して暮らせるまちづくり

正しい理解の普及・啓発

- ・認知症啓発講演会
- ・VR体験会
- ・若年性認知症についての啓発
- ・認知症の人の「希望をかなえるヘルプカード」



若年性認知症の人の 居場所・活躍の場

認知症と共に生きる講座 (認知症サポーター養成講座)

令和7年度は全市民対象として2回開催しました。
働いているだろう年齢層にも参加しやすいように土曜日に開催したところ、募集人数を大幅に上回るご参加があり、大盛況でした。
認知症の基本的な知識だけでなく、認知症基本法について学び、理解を深めました。その後は当事者の声を聴いていただき、体験談を元にグループワークを行いました。グループワークでは活発に意見交換ができ、同年代小人数でのグループづくりの効果を感じることができました。

グループワークでは、
認知症になっても、誰かにしてあげたい気持ちや担ってきた役割を続けたい気持ちを想像し、
出来ないことに注目するのではなく、「その人がその人らしく出来るように考える」時間を持ちました。



商業施設で 認知症行方不明者SOSネットワーク訓練を開催



誰もが一人で出かけて、したいことができ、安全に過ごせる地域になったらいいなど毎年声かけ訓練をしています。
地域にある商業施設の店舗で「困っていそうな人に声をかける」ことを目標に、認知症役に扮した人を置き、声をかけます。
店舗を利用させてもらうことで、興味のない方へも周知できるメリットがあります。



店舗で参加者全員が声かけを行うことは難いため、訓練前に事前学習をしてもらうことにしました。まず、包括職員の良くない例の寸劇をみていただいてから、参加者全員が声かけ役、かけられる役を体験できるようにロールプレイの時間を取り、その後、店舗での声かけ訓練に挑む形にしました。

声をかけるときのポイントは知っていても、実際に声をかけるとなると難しく感じた方もいたようですが、声かけの工夫点が見いだせたり、良い体験になったことは間違いのないようでした。

訓練開催には、商業施設との協力や、綿密な準備が必要になりますが、今後も関係する皆さまと盛り上げていきたいと思えます。



「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

(地域包括フェアで発信！！)

**令和7年度
地域包括フェア!**

緑台地域包括支援センターは高齢者の方の相談窓口です。
高齢者に役立つ情報を発信しています。
みなさん、お気軽にお越しください！きんたくんも待っています！

日時 11月8日(土) 10:00～15:00
場所 緑台老人福祉センター 1F

【パネル展示】
・介護予防 ・介護保険 ・権利擁護 ・認知症 ・地域包括
・アンケート ・能力測定や希望のコーナーもあります
※すべて見ていただいた方には缶バッジを進呈！(100名)

【きんたくと写真をとろう】
1回目 11:00～ 2回目 14:00～
※たくさん来てね！

【再日開催】
・成年後見センター・川西 相談会
・グリーンハイツ地区福祉委員会 バザー
・赤い羽根共同募金

主催: 緑台地域包括支援センター 共催: GH 地区福祉委員会、成年後見センター・川西
協力: キャラ/イベント連絡会 ※お問い合わせは TEL 072-792-9035 へ

地域包括支援センターは高齢者の相談窓口だけど、認知症の相談窓口としては知られていない

若い世代にも来てほしいから



少しでも早い相談を!



認知症の情報コーナー

認知症の相談窓口としてもっと地域に知ってもらいたい!



認知症のイメージ、知識向上、相談窓口について
地域住民の意識と意見をアンケート調査!

「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

(地域の声とアンケートから 一部抜粋)

◎認知症のイメージと認識

怖いと感じる	23.7%
身近な病気と考える	41.2%
誰にでも起こりうる	80.4%
正しく知れば予防できる	30.9%
よく知らない	3.1%
高齢者の病気	1.0%

◎認知症についてさらに知識を深めたい

知りたい	76.3%
あまり興味がない	10.3%
わからない	13.4%



◎物忘れや認知症について相談できる場所や相手はいますか？

家族	79.4%
友人・知人	38.1%
医師	29.9%
地域包括支援センター	35.1%
行政	4.1%
いない	5.1%



高齢化率は40%超え
で市内トップ！
相談は多いが**認知症**
については**知識も理解**
も**相談先も不十分**。

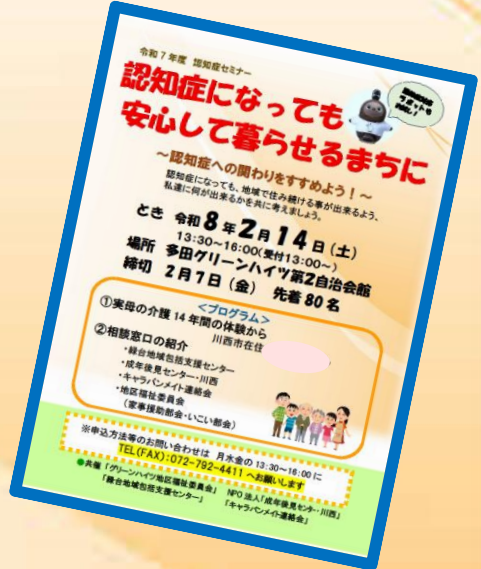


「認知症になっても安心して暮らせるまちへ」

(グリーンハイツ地区の取り組み)

【課題】

認知症への関心を高めることが必要！
いろいろな情報を知る機会が必要！
認知症になっても地域で暮らすには？
 (事例から見える家族と地域のかかわり方)



認知症セミナーを開催！

実母の介護 14年間の体験談



介護を通じて地域に発信！
地域づくりの大きなヒントを
頂きました。

地域の相談窓口の紹介



地域の取り組みと、居場所
を紹介しました。

認知症の方が使いやすい福祉用具を紹介

AI搭載コミュニケーションロボット『ラボット』の実演展示



GPS埋込くつ



「くすりコールライト」光と音で飲
み忘れを防止してくれます

何をしたら、早期相談、早期受診につながるのか、を模索する日々ですが、本年度も、地域ぐるみ4団体の共催で開催した「認知症セミナー」に、多くの高齢者が参加されました。やはり関心は高い様に思えます。

本地区は、高齢化率が40%超え、後期高齢化率は27%を超えています。また人口減少が進んでおり、5年後、10年後に向けて地域ぐるみで環境を整えていく必要があります。年齢関係なく認知症への正しい理解、特に若い子育て世代にも関心を高めてもらう事も課題の一つです。

今後も地域と連携しながら「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指して、活動していきたいと思います。



最後に・・・

新しい認知症観を広めて、認知症を自分ごとと捉え、誰もが自分らしく暮らし続けることができるよう、地域の方達と連携しながらあゆみを進めていきたいと思います。